

令和5年度 久慈拓陽支援学校教職員 働き方改革アクションプラン

～ 明るく 強く 生き生きと ～

久慈拓陽支援学校では、「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」に基づき、以下の取組により、「学校における働き方改革」を推進します。

1 現状

- ◆R4年度、時間外在校等時間が月80時間以上の教職員数0人
 - ◆R4年度、時間外在校等時間が月45時間以上の教職員数、年間延べ人数98人
(前年比+5人)
 - ◆R4年度、時間外在校等時間が年360時間以上の教職員数24人
(前年比+1人)
 - ◆ R4年度、19時を超える時間外在校教職員0人
- 管理職を含めた全教職員の意識
- ・月曜から木曜までの完全閉庁時間の19時が全職員に徹底されている。
 - ・教職員個々に、タイムマネジメントしながら業務する意識が向上している。

2 目標・目指す姿

- <R5年度目標>
- 教職員全員で、「明るく 強く 生き生きと」働きます。
 - 時間外在校等時間が月45時間超の教職員を0人にします。
 - 時間外在校等時間が年360時間超の教職員を0人にします。
- <目指す姿>
- ・ 職員一人一人が教育にやりがいを感じ、児童生徒に向き合っている。
 - ・ 教職員が互いに情報を共有し、助け合い支え合って業務推進している。
 - ・ 教職員が仕事とプライベートを大切にタイムマネジメントしている。
 - ・ 管理職が日頃から教職員に声をかけ、コミュニケーションをとっている。

3 (2を達成していくための) 具体的取組内容

○ 教職員の健康管理

- ・週4日(月～木)の完全退庁時間を19時とします。
- ・週1回(金)の完全退庁時間を18時とします。
- ・管理職が特割の適正な実施と有給休暇等の積極的な取得について促します。
- ・前年度の時間外在校等時間のデータを個々に開示します。
- ・職員の状況に応じ、健康相談事業等の活用を促します。

○ 学校における業務改善の推進

- ・職員会議と学部会はTeamsを活用しペーパーレス化を図ります。
- ・校務部会は部長が不要と判断した月は実施なしとします。
- ・学校行事は終了後の反省と同時に次年度の骨子案を作成して確実に引き継ぎます。
- ・文書フォルダを作成し、各種文書の雛形等を全職員が活用できるようにします。
- ・教材教具フォルダを作成し、学習プリントや教材の作り方など、共有化を図ります。
- ・管理職が学校評価と年度末反省までの過程で業務改善の絞り込みを進め、次年度改善案を明確にします。

○ 学校及び教員が担う業務の明確化・適正化の推進

- ・学校行事や校外学習、各種スポーツ大会、技能認定会等の教育活動において、登録サポーターの活用を積極的に進めます。
- ・通学指導・支援業務において、外部委託バス運転士及び添乗員と分担しながら、児童生徒の安全な通学を確保します。
- ・高等部生徒の自立と社会参加に向けて、企業との連携協議会や嘱託非常勤講師など、地域企業の指導を仰ぎ、キャリア教育を充実させます。

令和5年5月10日 久慈拓陽支援学校長 村上 嘉郎

(参考)「岩手県教職員働き方改革プラン(2021～2023)」(抜粋)

【策定趣旨】

- 働き方改革の実現により、岩手の未来を担う大切な子どもたちに、質の高い教育の持続的提供につなげる。

【プランの目標】

目標1 県立学校の教員の時間外在校等時間の縮減

- (1) 時間外在校等時間が月100時間以上の者をゼロにする。
- | | | |
|-------------------|-------|-----|
| ・令和3年度実績 | 県立学校計 | 71名 |
| ・令和4年度実績(第3四半期まで) | 県立学校計 | 21名 |

- (2) 時間外在校等時間(週休日の部活動指導従事時間を除く。)が月45時間超、年360時間超の者を下記のとおり縮減する。

時間外 在校等時間	取組期間
	令和5(2023)年度
月45時間超	ゼロ
年360時間超	

目標2 業務への充実感や、健康面での安心感の向上

- 令和5年度において、アンケート調査に基づく肯定的実感が令和3年度の実施結果から向上することを目指す。